

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム よりあい

ユニット名 _____

自己評価実施年月日 平成 19 年 10 月 18 日

記録者氏名 上主 計江

記録年月日 平成 19 年 10 月 24 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	タイムカードを打つ所に理念を掲示して、必ず目を通してから仕事に就くようにしている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	カンファレンス時には理念を読み上げ、それに基いた取り組みが出来ているかを話し合っている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	入所申し込み時には重要事項説明書・契約書とともに説明させて頂き、隔月発行のよりあい便りに掲載する等もしている。
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	屋外にて行う夕涼み会に足を運んで頂いており、施設内で行う催し物にも気軽に来て頂ける工夫をしていきたいと思う。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	地域で行う行事に、裏方として行える簡単な作業にも参加していくようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族関係者や、一般の方から介護の相談を受けたり、地域住民や児童の見学受け入れを行い、認知症の理解や接し方などのお話をさせてもらっている。	○	地域の様々な研修や会合に関わりながら、認知症ケアの啓発に努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員に伝え、皆で自己評価に取り組むようにしている。	○	評価毎に結果の報告、改善に向けての具体的な案を検討し実践に向けていく事の努力を怠らない。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム側の報告とともに、参加者メンバーからの質問、意見、要望を受け、双方向的な会議になるよう努めている。その内容は会議後に全職員が周知し、改善に向けての話し合いをしている。	○	会議で取り上げられた検討事項や懸案事項はその後の経過報告も行い、一つひとつ積み上げていくようにしていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	支援センター、町の介護保険担当者との連絡は積極的に行い、入退居のある毎に連絡表の届出も行っている	○	町職員の研修場所として事業所を活用してもらい、担当者が変わっても積極的に関係づくりは行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開き職員の理解を深めるようにしている。	○	成年後見制度の研修に参加し、必要と思われる方への支援をしていく。それぞれのご家族にも説明を行う等し、対応していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを行い、全職員が理解できている。	○	見過ごされる事のないよう確認を行い、発見した場合の対応方法についても周知徹底していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を見て頂きながら、ご本人とご家族に説明できている。また、ご家族には書類をお渡ししている。	○	同意を得たうえで必要事項には確認の印を頂いている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。利用者の不安や意見は職員間で話し合い、日々のケアに活かしている。	○	平日、併設病院より師長の訪問があり、要望や意見を聞いてくれている。苦情箱の設置も行っている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	奇数月に家族便り、偶数月によりあい便りを発行しお知らせしている。状態や必要に応じて1～数回の電話連絡も行っている。	○	ご家族の面会時には常に近況報告をしている。写真撮影の度に写真はお渡ししている。現在金銭管理をさせて頂いている方はいない。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロアに苦情箱を設置しているが、意見が入った事がないため、ご家族にはお便りや訪問時に問い合わせ、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。	○	外部評価時にはご家族からの意見があるものと思われ、出された意見や要望は職員間で話し合い反映させていきたいと思う。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りの後やカンファレンス時、仕事の合間を見ては意見を聞くようにしている。出された意見については全体で話し合いを持っている。	○	日頃よりコミュニケーションを図るように心がけており、職場以外の場でも意見を聞く事がある。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	予定や計画に合わせて勤務体制を組んでおり、臨機応変に対応出来ている。	○	無理のない勤務シフトになっていると思う。状況に応じた対応をとっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットであるため移動はない。離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。	○	新しい職員が入った場合は利用者きちんと紹介し、まずは利用者の中に入って関係作りをしている。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験や習熟度に応じて実務に支障を来たさない範囲で研修機会を確保している。	○	スーパーバイザーである師長に意見やアドバイスを受け、その都度育成に努めている。外部で開催された研修については、研修報告書にまとめ、職員全員に配布し発表も行っている。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催される連絡会の研修会に参加し、情報交換している。他のグループホーム見学にも出向く。	○	持続した交流の中で向上を図っていく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の表情や様子からストレスや疲労がないか声をかけるなどし、休憩時には休憩室にソファベッドを置き、リラックスできる場所を確保している。	○	定期的に親睦会を行っている。外部の研修に出向いた時に、他の同職者との交流の中で職員自身がストレスを緩和していけたらいいと思う。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者はよく施設に訪れ、現場の声を聞き職場環境に気配りをしてきている。	○	職員の資格取得に向けて支援を行ってきている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者や家族の思いを受け止め、安心して利用できるよう努めている。	○ 不安なく利用してもらえるよう関係作りに気を配り電話や話し合いの場をいつでも設けるようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の話をよく聞き、事業所としてどのような対応をしていくか話し合っている。	○ ご家族の苦労や不安などをゆっくり聞き、話をしながら段階を経ていく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者の話をよく聞き、何を求めているかの判断を話し合い、必要なサービスにつなげていくよう努めている。	○ 場合によっては地域のケアマネージャーや地域包括支援センターと連携しながら必要に応じたサービスが受けられるよう対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者やご家族の見学をお勧めし、心理的不安が少しでも少なくなるよう努力している。	○ 入所始めはご家族や関係者に可能な範囲で足を運んでもらい、安心感を持って生活できるよう配慮している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるため教えられる事は多くあり、そういった場面が多くもてるように声かけもしている。	○ お互いが協働しながら生活出来るように、その方の得意分野を把握して関わってる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を伝えることにより、職員の思いや家族の思いを確認しながら支援している。	○	それまでの暮らしぶりをよく聞き、情報を共有し、家族と同じ思いで関わっている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	できるだけ多く関わりを持っていけるよう、外出や外泊でご家族と一緒に過ごす事をすすめたり、行事にご家族を誘ったりしている。	○	ご家族の訪問時には日頃の状態を報告する等し、ご家族と利用者の潤滑油的な役割が出来るよう心がけている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店での買い物を希望されたら一緒に外出する等している。	○	電話や手紙でのやり取りの援助をしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士仲の良し悪しがある関係を全職員が周知しており、利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となっている。	○	皆で楽しく過ごす時間や仲よし同士で過ごす時間作りをする等している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方が通りがかりにお茶を飲みに来てくれたりしている。	○	他の施設に入られた方の面会に行くなどしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族も含め話し合いをし、本人の希望する箇所に足を運ぶなどの支援をしている。	○ 日常会話や行動の中から気持を汲み取るよう心がけている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報提供をお願いし、近所の方にもケアの参考になる事柄を教えてもらったりしている。	○ その方を理解し希望に添えるよう努めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムの違い、出来ることと出来ないことの違いがあるので、暮らしぶりの流れにそって全体像を把握していく。	○ 日々の変化を見逃さず、出来ることの発見に気をつけ、情報は共有していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の話聞き、気づきやアイデアを取り入れていくようにしている。	○ 職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前でも変化に応じて検討見直しを行っている。	○ その時々気づきや変化を見逃さず、臨機応変に介護計画は変更していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を残すことはもちろんのこと、勤務につく前には口頭での申し送りとともに、記録の確認も行っている。	○	気づきや利用者の変化の記録を参考に介護計画の見直しに繋げている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族から相談・要望があれば、その時に必要なサービス（通院や外出等）も受けられるよう支援している。	○	常時、併設病院との連携も取れており、病院師長とともに柔軟な支援をしていくようにしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	いつでも訪問は歓迎しており、必要時にはこちらから協力を呼びかけている。	○	地域との交流の中でその方に合った支援をしている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じての支援と協力はいただいている。	○	訪問理美容サービスや近隣商店の商品持ち込み販売に来てもらったりもしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加してくれるようになり、講習会や体操の紹介などを含め、関係が強化された。	○	常時連絡をとって包括支援センターと共に、活動をして行く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族が希望するかかりつけ医に診てもらえるよう支援している。	○	基本的にご家族同行の受診・通院としているが、事情に合わせて職員が行っている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設病院に専門医が来られるので指示や助言をもらっている。	○	併設病院の常在医師は専門医ではないが、家族や職員の話をよく聞いてくれ、日常の利用者の姿を通して指示や助言を受けている。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設病院師長が平日は昼食を共にしているため、気軽に相談が出来る。	○	併設病院と24時間気軽に相談できる体制をとっている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	問題なく話し合いは出来ており、入院された場合にはお見舞いに出向くようにしている。	○	入院された時には施設やご家族と情報交換しながら、早期回復、早期退院に向けアプローチしている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化した場合における対応に係る指針についての意思を確認している。	○	一度方針を決めても状況の変化に応じて繰り返し話し合いはして行く。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携を取りその方に最良と思われる終末期を迎えられるよう支援していく。	○	急変した場合は、すぐに対応出来るよう併設病院との連絡は密に図る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	少しでもダメージが少なくすむようアセスメントや情報交換を行い、ご本人の習慣や好みに配慮した支援を心がけている。	○	今までの暮らしの継続性が失われないよう、情報交換し、支援の内容をご本人・ご家族に確認していく。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書面などを通じ、個人情報の取り扱いには注意をしている。	○	ミーティングやカンファレンス時に職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように徹底している。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声のかけ方をし、本人が決める場面作りをしている。	○	職員側で決めたことを押し付けることのないようにしている。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、それに囚われず利用者の思いを尊重した支援を心がけている。	○	買い物、散歩、入浴等、一人一人の状態や希望に配慮し柔軟に対応していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝や入浴後の着替えは本人の好みで選んでもらっている。希望があればお化粧品のお手伝いもしている。	○	希望時には出張カットやボランティアによるカットをしてもらっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の洗い、皮むき、調理、下膳、台拭き、食器洗い等できる場面で参加してもらい、職員も同じ食事を一緒にとっている。偏食のある方には差し替えの副菜を調理している。	○	旬の食材や新鮮なもの、畑で取れたものを採り入れ出来るだけ地産地消を心がけている。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好を理解し好みのお酒を買いに行ったりしている。	○	自宅と同様に馴染みの嗜好品を楽しめるように配慮していきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握しその方に合った支援をしている。	○	必要に応じて排尿チャートをつけるなどし、出来るだけトイレで排泄出来る支援に取り組む。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日や希望の時間に利用してもらっている。	○	入浴を拒む方に対しては声のかけ方や対応の工夫をしている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整える工夫をしている。	○	寝付けないときには甘い食べ物や温かい飲み物を出し、世間話をするなどしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な分野で力を発揮してもらえるようお願いできそうなことは頼んでみたりしている。	○	一人ひとりに合わせた楽しみ事作りを考えている。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながら利用者に合わせた対応をしている。希望時は買い物に付き添い、支払い・お釣りの確認の支援をしている。	○	管理できる方には所持していただいている。(現在6名)中に、どこに置いたのか忘れてパニックになる方もおり、金額と最終確認した場所の情報共有を行っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの楽しみや習慣に合わせて外出している。	○	天候、体調、希望に応じて外出の支援をし、外気に触れてもらっている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人特定の場所に外出希望の際は、あらかじめ予定を立て職員の勤務調整をしている。	○	ご本人の思いが聞かれた時は、職員間で実現に向けての検討をしている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を掛けたり、手紙の代筆を行ったりしている。	○	ご本人が年賀状を出す事の働きかけをしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めておらず、いつでも来ていただき時間によってはおやつも共にしてもらっている。	○	希望時には宿泊・食事もしてもらっている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体的拘束によって利用者が受ける精神的・身体的弊害についての理解をしている。	○	申し送りなどで自覚しない拘束が行われていないか点検し、身体拘束について職員の共通認識を図っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に鍵をかけることはない。一人で出かける様子があれば、さり気なく声かけをして一緒に出かけるようにしている。	○	チャイムやセンサーはついているが、見守りを第一としている。フロアを留守にする際には他の職員に声かけをするなどしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の様子は常時気にとめ、職員間で所在の情報共有をしている。	○	夜間は利用者に合わせた巡回を行っており、転倒の危険がある方にはコールマットの活用もしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や裁縫道具を使うときには利用者の状態に応じて傍で見守り、声かけをしている。	○	ライターや灯油等の危険な物は目に付く場所に置かないようにしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態から予測される危険を検討し、事故は未然に防げるよう取り組んでいる。	○	インシデント・アクシデントを記録し、職員の共通認識を図っている。事故が発生した場合は報告書を作成し、家族への連絡も欠かさない。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応についてマニュアルを作成し、外部での勉強会に参加したり、施設内研修も行っている。	○	夜間は1分ほどで行き来できる併設病院に電話連絡するよう周知徹底している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署主導による訓練も受けており、職員間でもシュミレーション訓練を行っている。	○	避難経路の確認、消火器の使い方の訓練は年に2回行い、非常食や備品の準備をしている。地域の方にも支援してもらえる体制がとれている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時、必要に応じて話し合いをもっている。	○	利用者一人ひとりのリスクを把握し、対応策はご家族に説明し、話し合っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝検温、対象者の血圧測定は行っているが、表情や食欲から変化を見逃さないようにしている。	○	変化は記録に残し、状況に応じて医師受診している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用している薬剤情報は常に新しいものを個人日誌にファイルしてある。	○	往診や臨時に薬が処方される度に申し送りを行い、薬の内容が変わる度に薬局薬剤師とも連絡を取り合い状態の経過や変化を話し合っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立やおやつメニューで繊維質の多いものを採り入れるなどしている。	○	散歩をしたり、腹部マッサージを取り入れるなどし、下剤は医師の指示のもと投与している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を理解し、ご本人の習慣や意向を踏まえ個別に見守り介助を行っている。	○	毎食後の歯磨きの声かけを行い、ご本人に出来ないことを支援している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師・栄養士の指示をもらい、その方に応じた支援をしている。	○	一人ひとりの嗜好を把握し、献立に取り入れ、摂取量は記録に残す。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、全職員で学習して予防・対策に努めている。	○	感染症に対して情報収集を行い、毎年、希望者であるが職員・利用者共にインフルエンザの予防接種を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの励行。生物の買ひだめはしない。調理器具や台所の衛生に努めている。	○	食器類は毎食後煮沸消毒を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ハード面で家庭らしさに欠けてはいるが、花を飾り池を置き、ベンチを設置する等の工夫をしている。	○	屋外のテーブルで川を眺めながらお茶を飲んでもらうなどしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾を行い、テレビや会話音に気をつけている。	○	フロアでの飾りつけの際には利用者の方々の意見をもらい、共に作業を行っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋外にテーブルと椅子、廊下に椅子を置き廊下には季節の装飾を行っている。	○	利用者個々の状態に合わせた空間作りを検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みの物を持ってきてもらえるよう働きかけをしている。	○	利用者の方が過ごしやすい配置に心がけている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全ての部屋に換気扇を設置している。洗濯場・汚物処理場・浴室は24時間換気している。	○	フロアは掃除時や毎食後換気を行う。居室の温度設定は常温の±5℃を基本にはしているが、利用者の状態に応じて調節するようにしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の状態に応じた家具などの配置に気をつけている。	○	トイレや浴室等、利用者に見合った場所や椅子をお勧めしている。物干し台の高さに配慮し、日用品の収納はご本人に確認している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方に合わせた環境整備に努めている。	○	混乱や失敗が生じた場合は職員間で話し合いガラスが反射をなくしたり、目印をつけたりしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	草むしりや季節の野菜・花の手入れ、金魚に餌やりなどしてもらっている。	○	日向ぼっこや外気浴を楽しめるようベンチの設置をしている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

自然に囲まれた中で、それぞれのペースでゆったりと、生き生きと暮らせるよう20～60代の幅広い年齢層の職員が色々な形で関わりを持ち、笑って過ごせる時間を大切に支援しております。